

修士論文  
2009年1月

# 障害児をもつ母親の育児ストレスと社会的支援

指導 茂木 俊彦 教授

副査 森 和代 教授

副査 鈴木 平 准教授

国際学研究科 人間科学専攻 健康心理学専修

207J5006

尾野 明未

# 目次

はじめに

## 第1章 先行研究の検討

- 第1節 障害児を持つ母親の育児ストレスに関する研究
- 第2節 障害児を持つ母親の育児ストレスに関わる諸要因の研究
- 第3節 健常児の母親の育児ストレスに関する研究
- 第4節 ソーシャル・サポートに関する研究
- 第5節 就労と育児ストレスの関係の研究
- 第6節 心理学的ストレス理論とソーシャル・サポートの概念

## 第2章 障害児を持つ母親の育児ストレスと社会的支援の調査

- 第1節 調査の目的
- 第2節 方法
- 第3節 結果
- 第4節 障害児を持つ母親と健常児の母親の育児ストレスの比較検討
- 第5節 育児ストレスの程度によるストレス関連項目の検討
- 第6節 障害児の母親におけるソーシャル・サポートと育児ストレス関連項目の検討
- 第7節 健常児の母親におけるソーシャル・サポートと育児ストレス関連項目の検討
- 第8節 障害児有無とサポートの高低による育児ストレス関連項目の検討

## 第3章 ソーシャル・サポートとストレス対処法の関連

- 第1節 共分散構造分析を用いてモデル図の検討

## 第4章 育児ストレスと関連する要因の検討

- 第1節 就労と育児ストレスの関連の検討
- 第2節 障害属性と育児ストレスとの関連

## 第5章 総合考察

## I はじめに

子どもを育てることは、体力、精神力、時間、経済力などを必要とし負担が大きいですが、同時に子どもの成長が楽しみであり喜びになる。しかし順調に成長すると思っていた子どもに、発達の遅れがあったり、障害があった場合、母親の心理的衝撃は大きく、育児の心理的・身体的負担感は、健常児の親のそれらと全く同質のものと考えられない。障害児を持つ母親はどんなところに育児ストレスを強く感じているのか実態を把握し、ストレスを軽減・緩衝するためには、どんな育児支援が有効かを明らかにしたいと考え、本研究を行うことにした。

## II 目的

育児ストレスの緩衝要因としてソーシャル・サポートがあげられるが、これまでの障害児をもつ母親の育児ストレスの研究は、ソーシャル・サポートとストレス反応の関連について明らかにしてきたが、障害児を持つ母親を対象にしたソーシャル・サポートとストレス対処方略の関連について検討した研究は見あたらない。本調査研究ではソーシャル・サポートとストレス対処との関連性を、小杉・種市（2002）の心理学ストレス理論のモデル図(Figure 1)を基にして検討する。

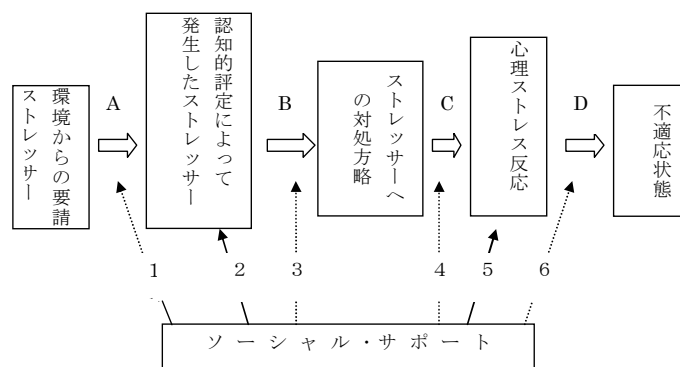


Figure 1 心理学ストレス理論とソーシャル・サポートの関連性のモデル図

(出典：小杉・種市 2002 を参考に作成)

小杉・種市（2002）の心理学ストレス理論のモデル図(Figure 1)を基にして、ソーシャル・サポートがストレス対処の遂行を高めるとする仮説と、ソーシャル・サポートは精神的健康を高めるとする仮説を検証することを本研究の目的とする。また、就労と育児ストレスの関連について、障害種別の育児ストレスの特徴についても併せて検討する。

## III 方法

1. **調査対象者**：関東圏内の発達療育施設、親の会に所属する3歳～6歳までの障害児をもつ母親と、関東圏内の幼稚園児の母親であった。
2. **手続き**：2008年6～8月の期間、関東圏内の4つの公立の発達療育施設と2つの親の会で、親の会の代表者から母親に191部配布し116部回収した。1つの発達療育センターと1つの親の会では、調査目的を説明し同意が得られた母親に質問紙と返信用の封筒を40部配布し、郵送にて11部回収した。関東圏内の2つの私立の幼稚園では、職員が園児を經由して600部配布し、留置法で418部回収した。

### 3. 調査内容：

- 1) 個人的背景要因として、母親の基本属性（年齢、児の数、母親の職業、家族構成、祖父母との同居）と、子どもの特性（年齢、性別、母親が理解している障害の種別、程度）を記入してもらった。
- 2) 質問紙
  - ①**育児ストレス尺度** 清水（2001）の作成した育児ストレス尺度を使用。
  - ②**コーピング尺度**（1995）による3次元モデルにもとづく対処方略尺度を使用。
  - ③**ストレス反応尺度** Stress Response Scale-18 (SRS-18, 鈴木・嶋田・三浦・片柳・右馬・坂野 1997)
  - ④**ソーシャル・サポート**は、北川ら(1995)の知覚されたサポートとして**家族サポート尺度 FSS**
  - ⑤堤ら(1994)のソーシャルサポートスケール (**Jichi Medical School ソーシャルサポートスケール**)

## IV 結果

健常児の母親において、夫、家族、友人のサポートは、ストレス反応低減の効果とストレス対応方略の遂行を高めることを確認できた。障害児の母親においては、夫、家族、友人のサポートは、ストレス反応低減の効果とストレス対応方略の遂行を高めることが認められなかった。

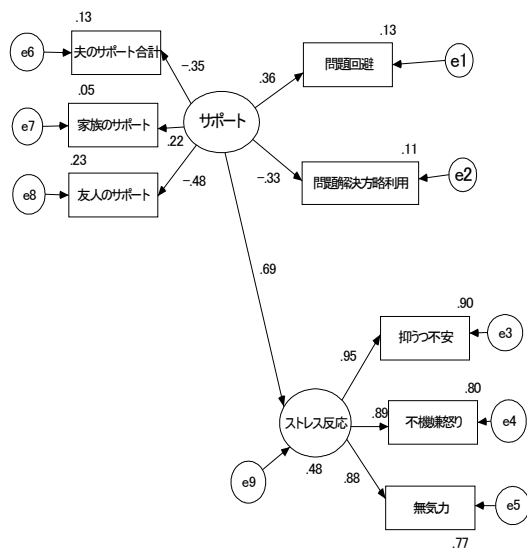


Figure2 障害児における共分散構造分析の結果

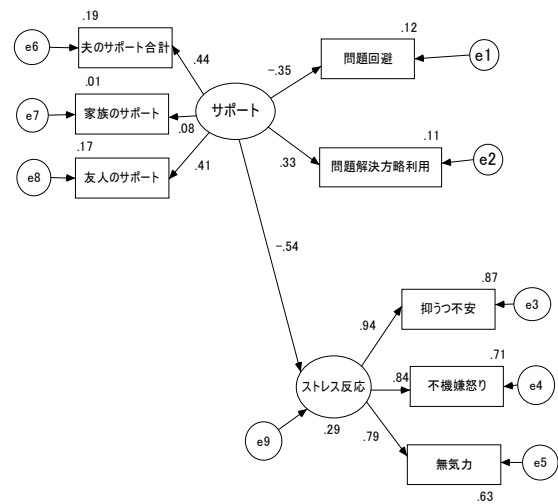


Figure3 健常児における共分散構造分析の結果

## V 考察

障害児の母親は健常児と比べて育児ストレスが高いことから、育児ストレスを低減するには、健常児と同レベルのサポートでは効果が期待できないことが推察される。ストレス対応方略の遂行を高め、ストレス反応緩和の効果を得るには、手厚く、多様なソーシャル・サポートが必要と考えられる。就労と育児ストレスの関係は、健常児では就労することで育児ストレスの低減を確認することができたが、障害児においては、就労は育児ストレスの低減に影響しないことを明らかにした。就労することで、育児によるストレスと就労によるストレスの両側面からのストレスが加わることが考えられる。

## 参考文献

- Cohen S., & Wills, T.A. 1985 Stress, social support, and the buffering hypothesis. *Psychological Bulletin*, 98, 310-357
- Cohen S., Gordon L.U. & Gottlieb, B.H. *Social Support Measurement and intervention A Guide for Health and Social Scientists* 39 (小杉正太郎・島津美由紀・大塚泰正・鈴木綾子監訳 2005 ソーシャルサポートの測定と介入 川島書店)
- 日下部典子・坂野雄二 1999 育児に関わるストレスの構造に関する検討 *ヒューマサイエンス リサーチ* 8 27-39
- 日下部典子・坂野雄二 2001 3歳児を持つ母親のストレス *ストレス科学* 15 (4) 276-283
- 今川民雄・古川宇一・伊藤則博・南美智子 1993 障害児を持つ母親の評価と期待の構造 *特殊教育学研究* 31 (1), 1-10
- 稲浪正充・西信高・小椋たみ子 1980 障害児の母親の心的態度について *特殊教育学研究* 18-3 33-41
- 稲浪正充・小椋たみ子・Catherine Rodgers・西 信高 1994 「障害児を育てる親のストレスについて」*特殊教育学研究* 32 (2) 11-21
- 神村栄一・海老原由香・佐藤健二・戸ヶ崎泰子・坂野雄二 1995 対処法略の三次元モデルと新しい尺度(TAC-24)の作成 *教育相談研究* 33, 41-47
- 柏木恵子 1998 *結婚・家族の心理学* ミネルヴァ書房
- 金媚鏡・福富護 2005 子育て期の女性のアイデンティティの確立に関する日韓比較—妻役割、母親役割、職業を中心にみた様相— *東京学芸大学紀要1部門* 56 103-111
- 北川憲明・七木田敦・今塩屋隼男 1995 障害児を育てる母親へのソーシャル・サポートの影響 *特殊教育学研究* 33 (1) 35-44
- 小杉正太郎編著 2002 *ストレス心理学 個人差のプロセスと コーピング* 川島書房 Lazarus, R.S., & Folkman, S. 1984 *Stress, Appraisal, and Coping* New York Springer. 本明寛・春木豊・小田正美(訳) *ストレスの心理学：認知的評価と対処の研究* 実務教育出版
- 牧野カツコ 1983 働く母親と育児不安 *家庭教育研究所紀要* 4 67-76
- 松田惺 1991 *新・児童心理学講座* 12巻 家族関係と子ども 金子書房
- 松尾久枝・加藤孝正 1995 障害児をもつ母親の養育負担感にかかわる要因に関する研究—社会資源の利用状況を中心として— *発達障害研究* 16 4 281-293
- 松岡 治子・竹内一夫・竹内政夫 2001 障害児をもつ母親のソーシャル・サポートと抑うつとの関連について *日本女性心身医学会雑誌* Vol.7 NO.1 46-54
- 中嶋和夫・齋藤友介・岡田節子 1999 母親の育児負担感に関する尺度化 *厚生指標* 46-3 11-18
- 中野孝子 1993 家族ストレスに関する基礎的研究 —心身障害児を持つ親のストレス— *教育科学研究年報* 19 69-84
- 中野孝子 1993 家族ストレスに関する基礎的研究 —心身障害児を持つ親のストレス— *教育科学研究年報* 19 69-84
- 中塚善次郎 1984 障害児をもつ母親のストレスの構造 *和歌山大学教育学部紀要* *教育科学* 33 27-40
- 根本治代 2005 障害児家族に対するソーシャルワーク理論の返還 *現代福祉研究* 5号 167-182
- 新見明夫・植村勝彦 1980 心身障害児を持つ母親のストレスについて *ストレス尺度の構成* *特殊教育学研究* 18(2), 18-33
- 新見明夫・植村勝彦 1984 学齢期心身障害児を持つ父母のストレス *ストレスの構成* *特殊教育学研究* 22(2) 1-12
- 岡本祐子 1987 成人女性の自我同一性達成の関連性の検討 *日本教育心理学会* 29回 総会発表論文 29 496-497
- 岡崎奈美子・柏木恵子 1994 これからの女性の生き方についての発達の考察—既婚女性を中心に考える— *発達研究* 10 73-81
- 清水嘉子 2001 育児環境の認知に焦点をあてた育児ストレス尺度の妥当性に関する研究 *ストレス科学* 16, 3 176-186
- 鈴木・伸一・嶋田洋徳・三浦正江・片柳弘司・右馬埜力・坂野雄二 1997 新しい心理的ストレス反応尺度 (SRS-18) の開発

と信頼性・妥当性の検討 行動医学研究 4、22-29

竹田小百合・岩立京子 1999 ソーシャル・サポートに及ぼす効果について—特定のサポート源の違いおよびサポートに対する必要度との関連から 東京学芸大学紀要1部門 50 215-222

田中正博 1996 障害児を育てる母親のストレスと家族機能 特殊教育学研究 34, 3 23-32

籾郷さなえ・中塚善次郎 1989 発達障害児をもつ母親のストレス要因(Ⅱ): 社会関係認知とストレス 小児と精神と神経 29(1, 2) 1, 6 97-107

籾郷さなえ・中塚善次郎 1987 発達障害児をもつ母親のストレス要因(Ⅰ) 鳴戸教育大学教育研究センター紀要 1 39-47

堤明純・萱場一則・石川鎮清・苅尾七臣・松尾仁司・詫摩衆三 2000 Jichi Medical School ソーシャルサポートスケール

(JMS-SSS): 改訂と妥当性・信頼性の検討 日本公衆衛生雑誌 47, 10, 866-878